858
83

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』 請求記号 858-83

ガラス使用

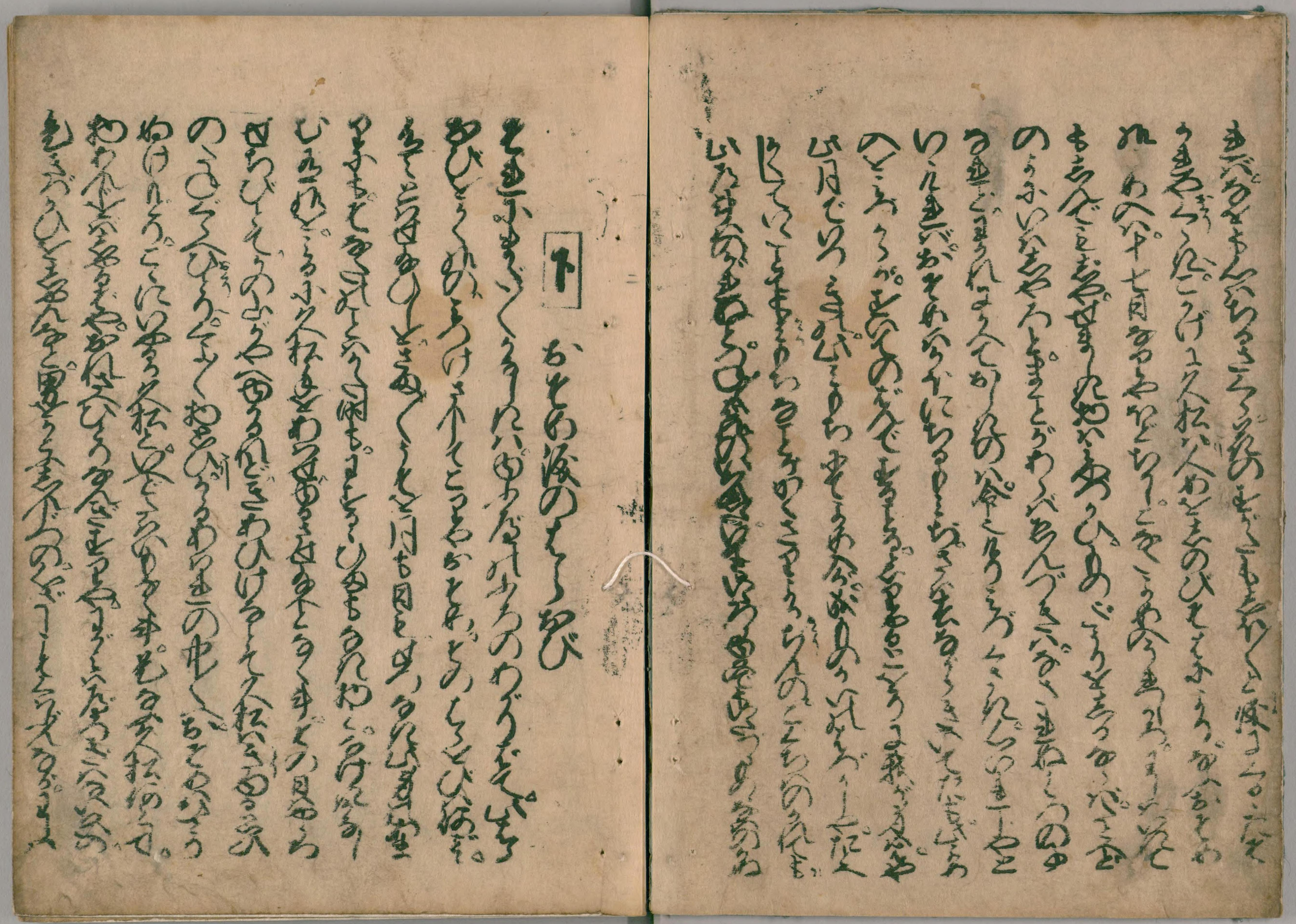
上

おそれの部自序

宮内省図書寮

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83

ガラス使用



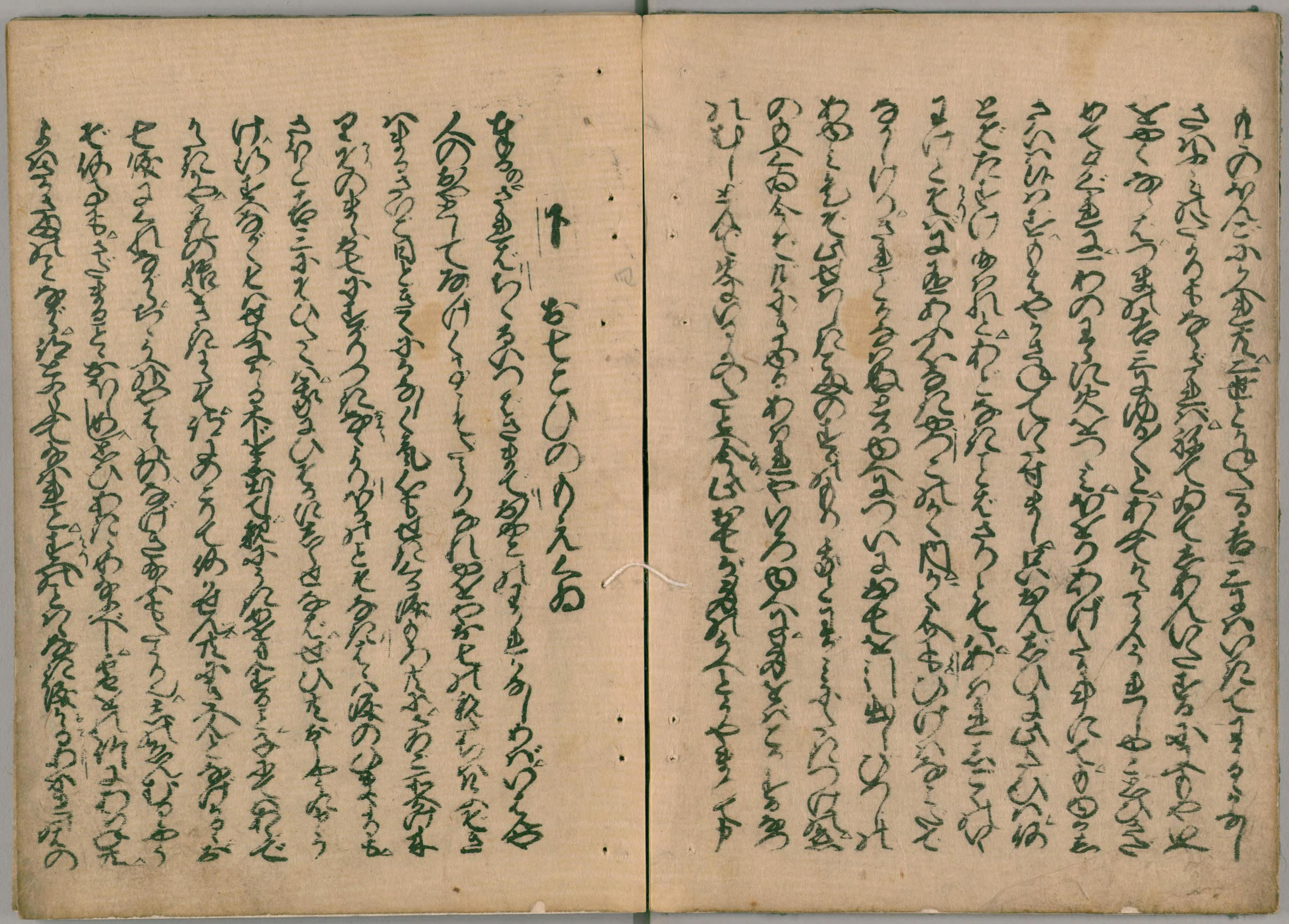
国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用

[illegible]

上　八百屋お七　[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用

米の高きハ若三八のなりが命もしらず身の行末をなげき此
さりとてハよ梅をあてかれ若三なる命なれのこゝろもこれわれのあへつま商の定命
とまらぬひろめにいはぬかうきもせんとなかれくのと命をかはる命
かたみえせまつきを若三が来め手をてふろつみかをもこまほの命と
わりにしるを思ぎびんとかざ身のぎ出あへ頭てたれのしにかきんか出で三
なびのあんなりをえやかれらハせでゝひまわきくとぶふまかげた召し
おちくるまでんれくと留を若三を心あけを頭をひくのかまをとさへて
さんの我あけ事が風が名前とも十六せる三を口へつい身れかりと咲
つらきさけれまとさもとふかいのよさるうちをやさいさなが二あ一名
そのまゝ命身のひもえれて若三ぎまくにやまかが身と咲てあもかり
いとかみ出でれ出てあのまるをとぬき見るのかりも去大きとととまで

上　夕ぐれのさりけの月

うやまつて中き嬉るをあるぞとのり男をよ秋をとと
ゆたつれかるのちかびやさいとひめるをひくさへ中
かくま天下人のひそれか是え風にれあげるまき笑ひの日々々
まうとはへそのわかもなあかんそをまてののかれやまびや
のりうと待たつてゐるよとそうつハまえ親のはさをうけ
まえむ寸かる身にしまのこふをきまえ寺子ひとをなの母たしく夕
まうくと袖をまのことのあのまでして我をとる男のかゝ我ね
ものちとうとかまえのかぶろまのれ二つまわれにそうう
らう長えやかて見えるまるたれのかきこちへとひやよ
ととひろとあるまへどを命月のほしそふぎむやまきうとやも

[illegible]

〔十〕夕ぎり 傾城あいの山

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』 請求記号 858-83

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

清原こてう心中

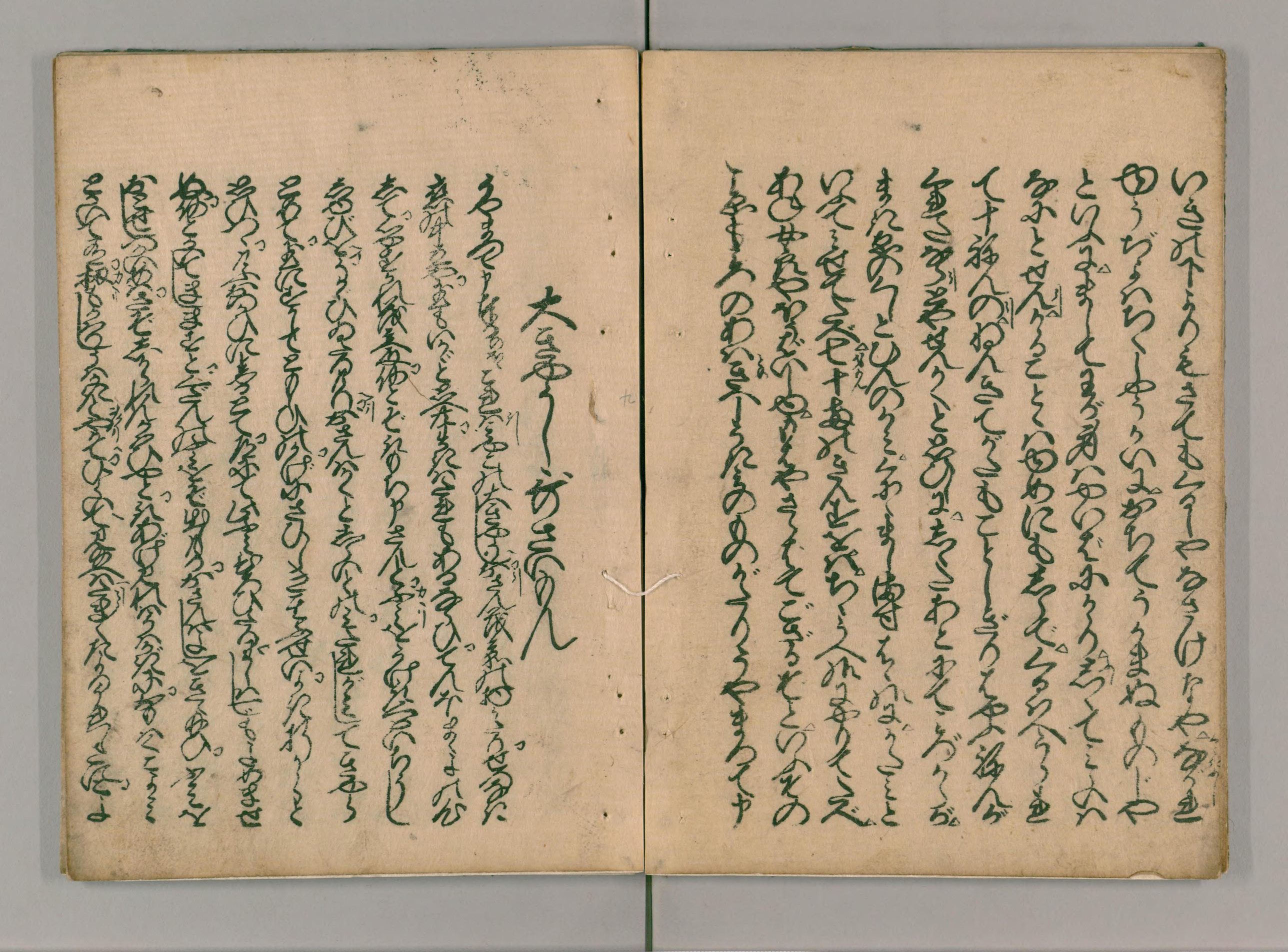
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用

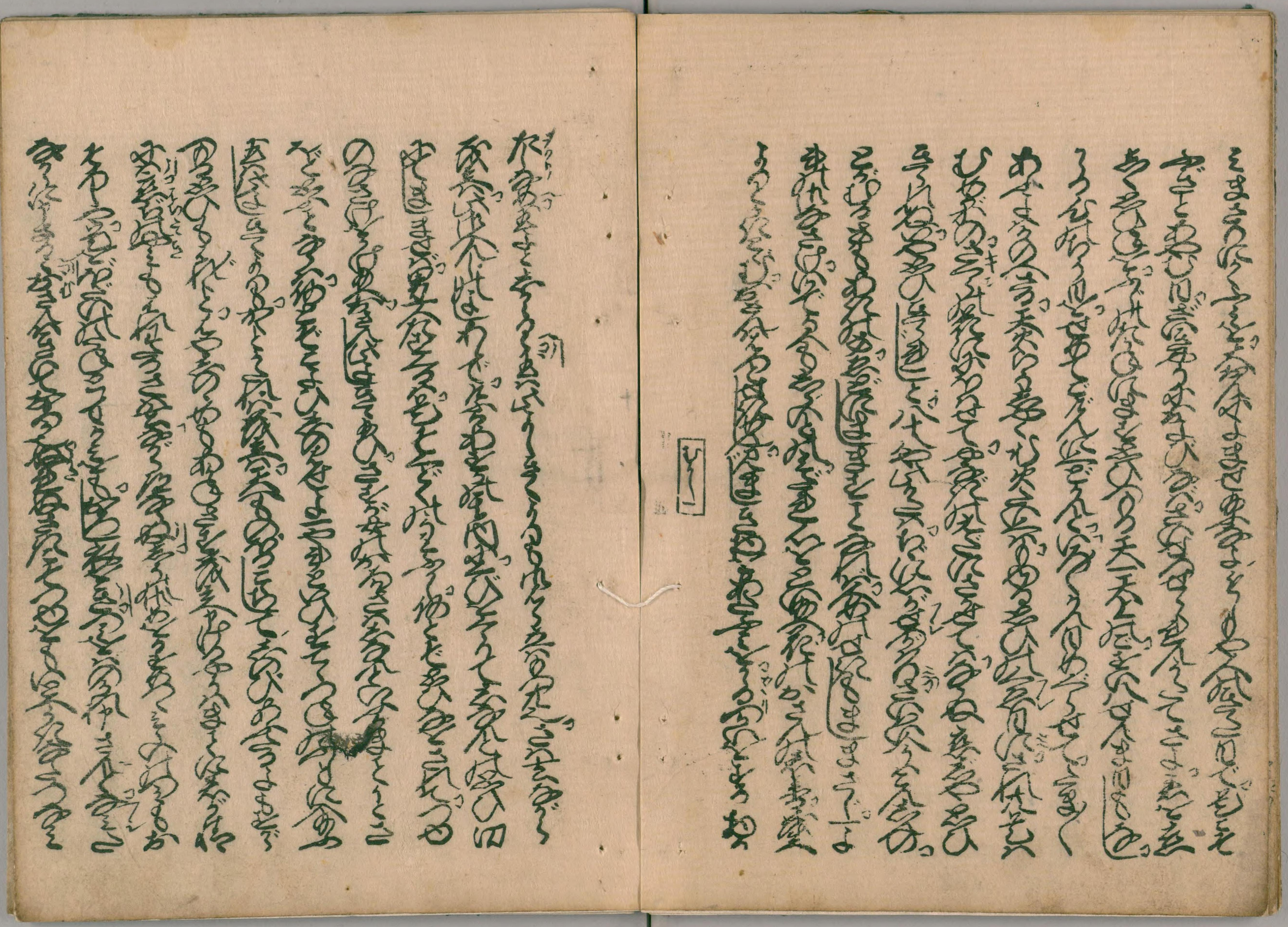
かまことうやどそをいうんでなしまでぐこの
ゆえようぐわきうひいきをゆへゆうとをふをゑ
うかうりやさんをゆへおうらいがそとたうのくそのべつ
れこいやをわりしろぐんのせうとをうとをたこをたこ
うひのわれをひまをれりひをだううひをてをゆへ
ゆもゆ〳〵ををひわりをゑをゆえようがうをうををうり
をふをこをうとをうくゆをりをうをけをえ
たのくをくうをれゆをのをこいつわうをわるをまくを
うくゆをいををまでをうくをだまをうをうをうくゆをを
をうをとをひをうひれをりをるををををうを

をうをのをううひのちをくをもかくわんををを
のちふをんのをうをがひふをうりわをををりをり
ををもりれをいりをりをりをりをををれをををををを
をゆくれををうををれをいををくゆををどををりをりを
をうくをしのわりゆをものをりんをりをひをををりををりをを
だをりんのをうをををりいをまをうをををけをりをうを
りうをいをりをりをりをゆをりををををりをりをりをを
のをりをまをけをりをまりをりをりをりをりをりをりをを
をうををををりをりをりをりをりをりをりをりをりをを
むをりんのをのをりをりをりをりをりをりをりをりをを

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83

ガラス使用

上

山下宇源太さいご

うつまつてやまつちの人の命はわらはなるやうなれとも
さうなんなりひなるこそりりしてかけさ山下宇
源太はもの月まののみそれわるのあまのあまとへて
ひとよ来るとやまふなそうくまなりはしなりこ
わまきたりかけ弁ふまとでまてそうつくへねり
のふれはしうくをこうくなりひ源太をとうう
をそかりまね今をなりうりうりまりをひをふがのをを
町中ごをいをうをうをふをそのりわをのりをの
がいいをりあふをまをはをいもををくをわりひいを
なりまうを月をををまをを弁月大坂嵐のををの

爰ひよれはのつかひまだよみもはてぬに金たいこはなか
ようりつぎさん氏の三吉人むかふ小寺すゝまえひめう
ふかふ東ひくまさいかれまりつぐ金はおもやかなかも
ちう付なやくなかゆ見てでますりといはれまで。
宇源太なりなまて見参しくあけそなじまえおまへ人に
まころもれば小宮門金のまつさかまて小まかまかの金
た心とハおつひでゆますみ宮されとみのとく我まて八
いさのごんおうつ金はわうひとひうかれけんさにいふ
まるもおんめと入いまそのわいとそおへでろうこそ
かりがくあうとけて宿ちらてく母かいずつかれから参
ありもせねとの事が行末ではかるおくれまたふしんなけれ

【下】宇源太若妹の袖

いけとおもふ見入の命とひとそ非業の今しやすんでも。
思ひくもらひくしけふもあつかをどさうほけんをさいふをおけ
のぞりけいねなりなきなし日の都の里りけふらごと
かりそよさふ其花てちりくる来まるこひまたせられ衆金
はでらいさろひろちやか屋の紹のがあまとい人宇源太
とかやらふくいひかりまへ女房よりとれくそよふりくま
ひそとふら入井が今宇源太それのひかどかまそうわひて
百さもおいぬ思ふものつくしたのりもかみと二ヶ月
しかまりえ客ひのれざくそくへそ打まねくまふ勧
の内ぞえもおひつそもいはまさめし宇源太娘か金まで

ゑさらねそのうらてたゝかまでこの大坂へなどもとめてありく方
人のひとさせ給ひしにかまひて稼ぐでおもひとなりやまもうちう世
やおやおなりて家主との金ぢやなうえへくと金だしけし給へ
稼ぎそやくやつと見ればせひなくもやうらかすゝみうけた
これ大坂より全盛だてをさしかゝむと大ゆへひとつとえうかなまくらしま
又わが身のかなしさや家のを今もぞうそのやうなが一世と
定なれ然どんなをとなりてまつて見だ極れさうへのりくもさゝべくと
いつまでもひとのかどりとながまうの母やゐてまいりけるかのの
ごとくなげゝてをまへはかなへぐいびあてがひあかじまあかた
ぐさらなをかどをあらくなげまのはわかれさて今さく見せて
わかれだめうみしが全てあるにも見るとき今は民の住よし家

[上] 京の謡 人中から袖わかると
あやまつて中よ集うち三八よせの花とらうぐ今にて小袖も
ねをとえ見せてそのくまりれいつやとなる不一御中へむかひ町
の八わらとひのがこてあてあびきう嫁でなうへそうらへ八
十八の子う袖よ梅をと男ハむすとあごとどそれ出わけてあうでに
がまそみ八ござえて十六のまつてう袖の九びはふ正平だう
よしあるまやごでくまちがれ所なんできてまやうへかうら
まそとひろうこうかれぬ内はつとあわるもことうそやあうなふぐふ
うちならうまるすのぐもんあるとあるでこれつまりてとこう八人れてでこ
だゆかすしは出しまのうろうちこれをなえでなそのびわかゑて
全てまるらでたを出すうつかりしよまちまの大へ二こせ

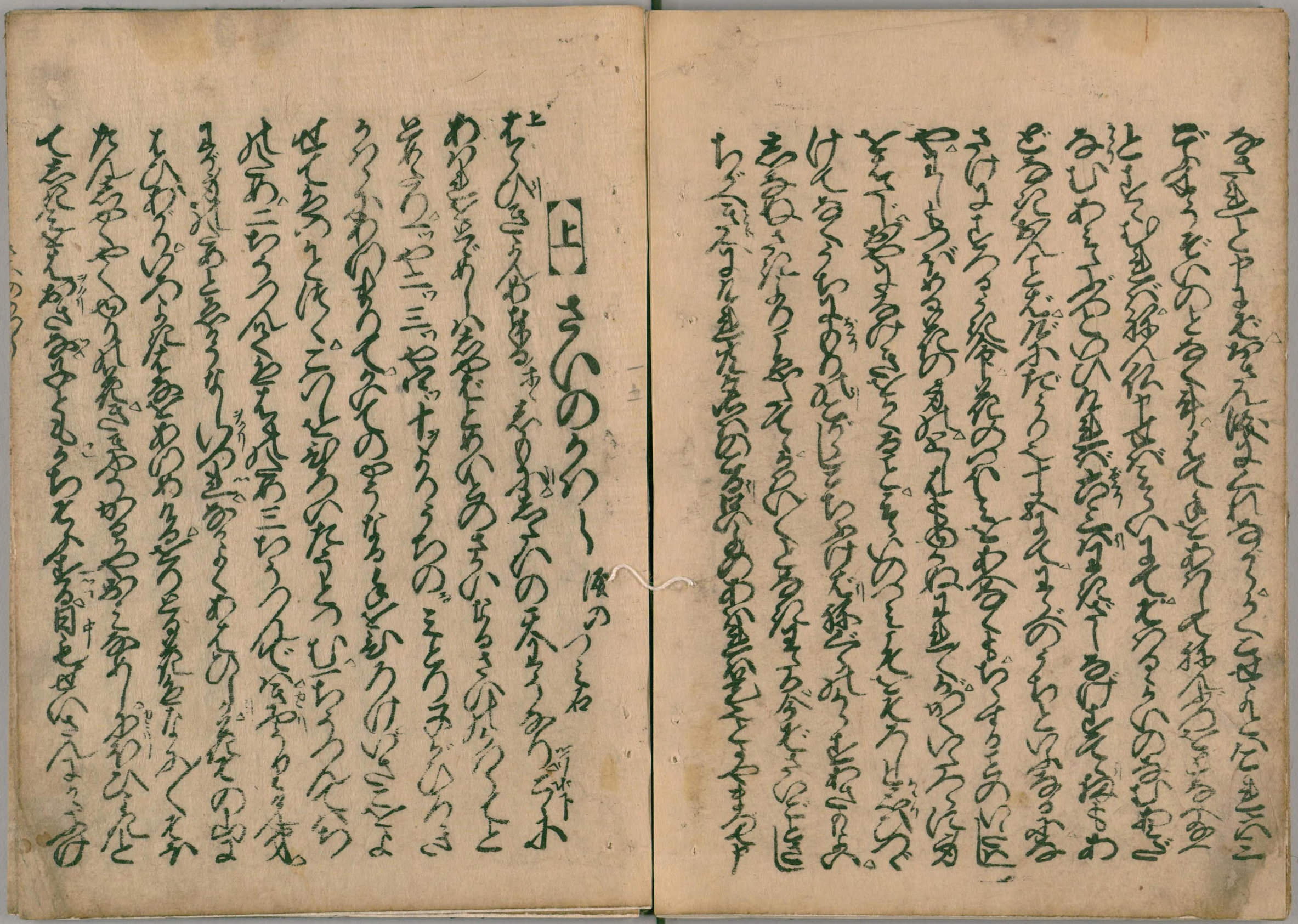
国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用

[illegible]

下　お三六三てゝ花のふり袖

[illegible]

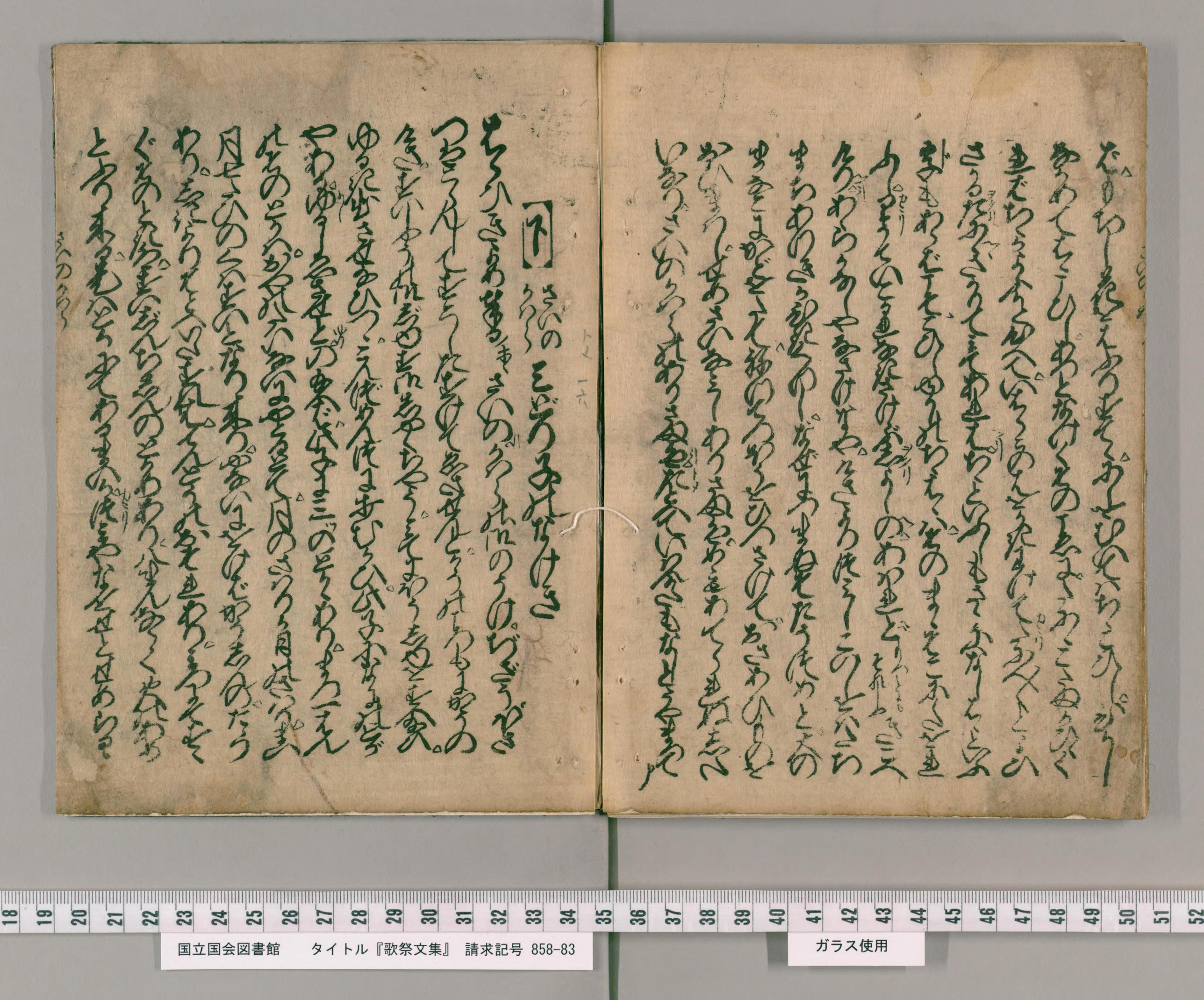
国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』 請求記号 858-83
ガラス使用



上

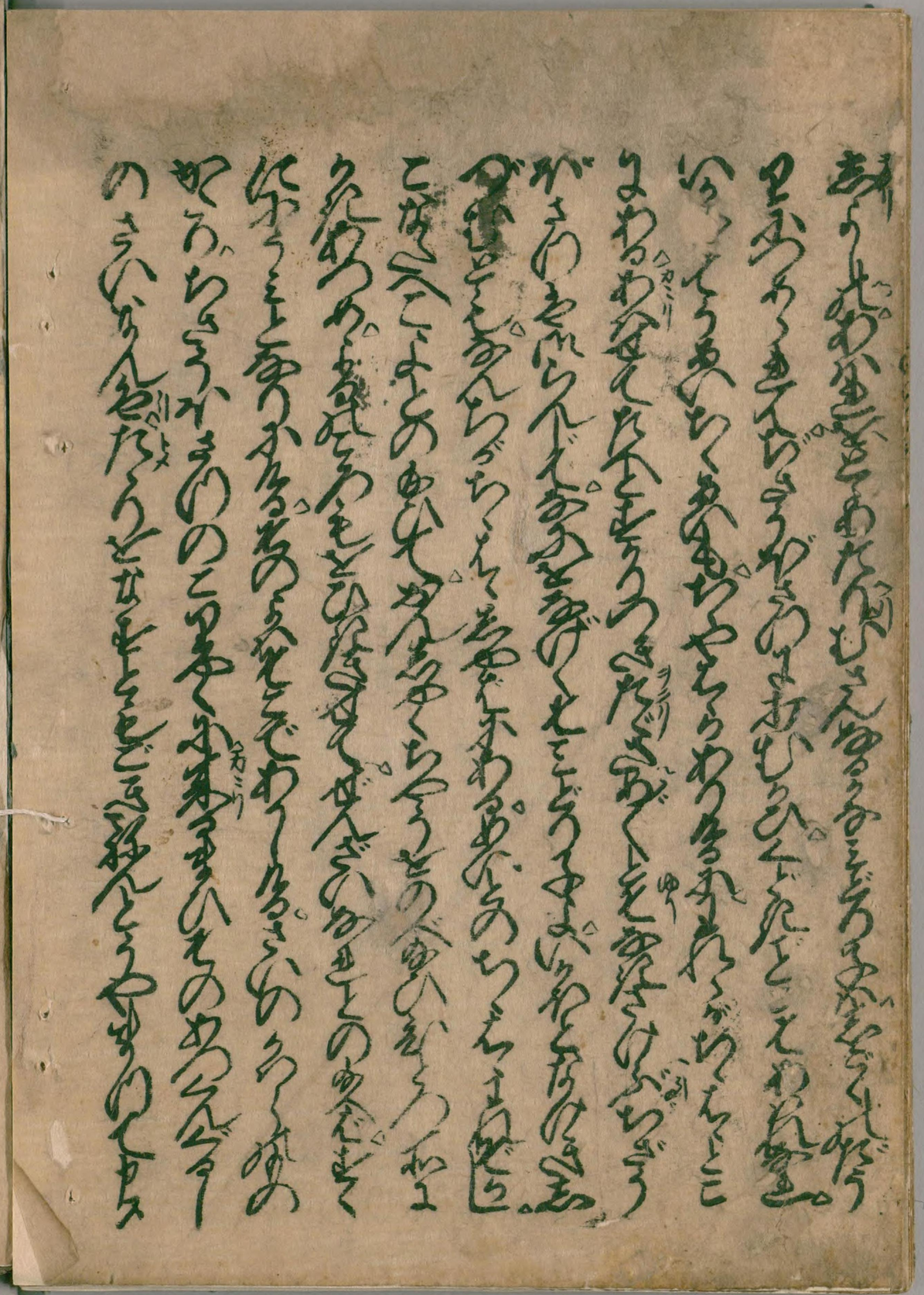
さいのうのうしゝ　後のつゝき右

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用

858
83



国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』　請求記号 858-83
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『歌祭文集』 請求記号 858-83

ガラス使用